

化学療法・放射線治療中の お口の健康管理

～お口のトラブルを予防して治療を円滑に～

これから化学療法・放射線治療を受けられる方は、
治療前からのお口の健康（清潔で、よく噛めること）が大切です。

治療中に、お口のトラブルによって、おいしく食事ができなくなったり、
楽しく会話ができなくなったりするだけではなく、
口内炎などにより食事が十分にできないために体力が落ち、
入院の主目的である治療を続けることができなくなることもあります。

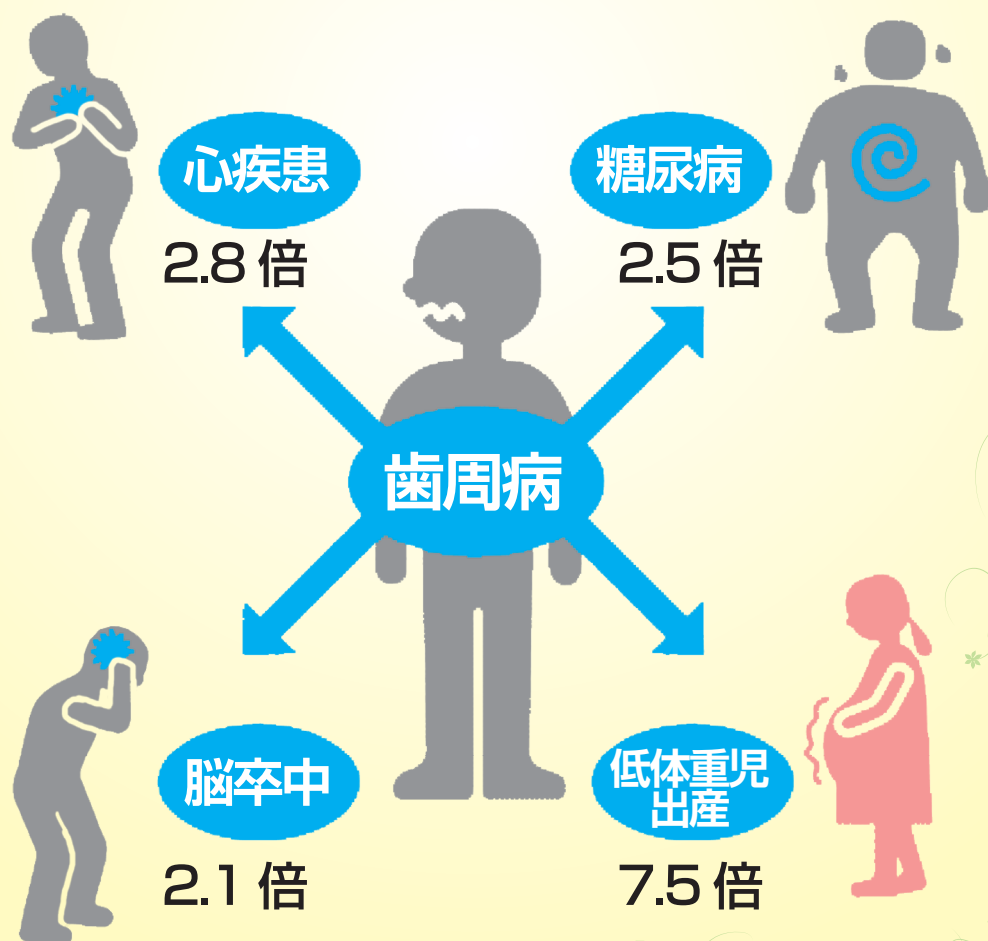
そこで、化学療法・放射線治療を始める前からお口のトラブルを予防・改善し、
治療を円滑にするためのお口の健康管理に関する本紙を
積極的にご活用ください。



歯周病が全身に及ぼす影響

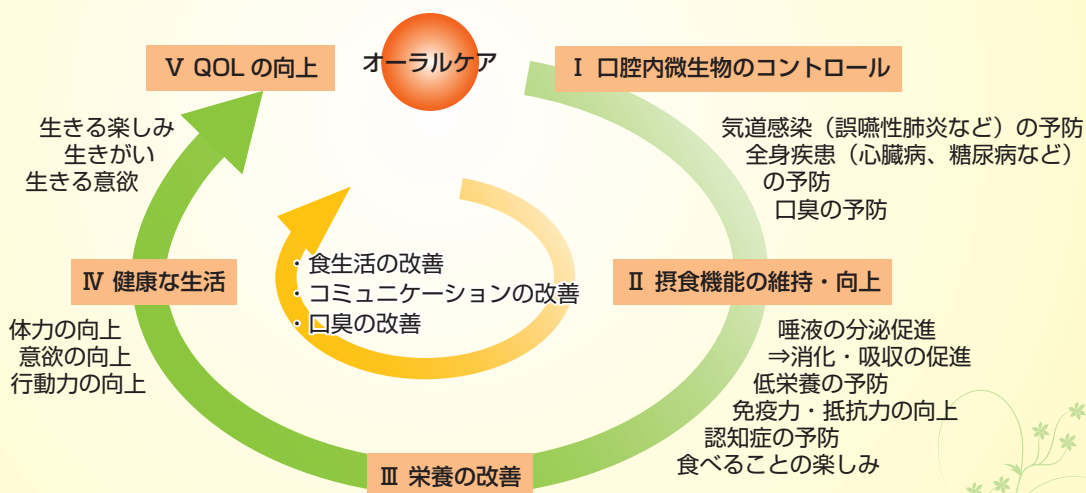
お口は栄養の入口であると同時に、呼吸や構音（発音）などの全身にかかわるさまざまな役割を担っています。

糖尿病などの病気があると、歯周病（いわゆる歯槽膿漏）になりやすいというのはご存じかもしれませんが、口の中が不潔な状態であると歯周病が進行して、歯のまわりの血管から口の中の菌などが全身に広がってしまいます。その結果、心疾患、脳卒中、糖尿病などの発症リスクが高くなります。



化学療法・放射線治療とお口の健康

化学療法・放射線治療は、がん細胞を攻撃しますが、正常な細胞にも影響を及ぼし、副作用が出てしまうことがあります。そのいくつかは口の中にも現れますが、口の中はとても敏感なため、痛みを生じてしまうことがあります。



お口は、食事、会話、呼吸のためになくてはならない器官です。がんの治療中でも、お口の健康を保ち、おいしく食べて楽しい会話のある生活で病気に立ち向かっていきましょう。



化学療法・放射線治療中と その前後に注意すること

治療中、治療後には以下のような症状が現れることがあります。

- ・口内炎（口腔粘膜炎）
- ・むし歯、歯周病
- ・口の中の粘膜や歯肉が痛んだり、舌がひりひりする
- ・感染を起こす
- ・口の中が乾燥する
- ・粘膜の表面が剥がれる、腫れる
- ・味が変わったように感じる
- ・食べ物が飲み込みにくい
- ・会話がしにくい



口内炎



放射線性口内炎



重度歯周炎

★化学療法…口腔合併症は全患者の 40%、骨髄移植では 75%、
放射線併用では 100% に起こる

★放射線治療…頭頸部がんは 100% に起こる

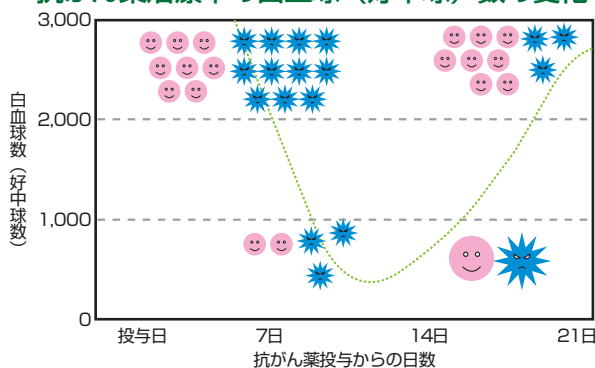
（ともに NIDCR 調査より）

これらの症状を少しでも軽くするため、
治療前にお口の検査を行い、必要な治療を済ませておくことと、
お口の中を清潔に保つ練習をしておくことが大切です。

抗がん薬治療による口内炎の特徴

抗がん薬治療による口内炎は、治療開始後3～7日頃、または白血球数が低下した10～14日前後に出現します。白血球は感染から体を守る免疫の役割を担っていますが、抗がん薬治療を開始すると白血球数が減ってしまうため、感染症にかかりやすくなります。

抗がん薬治療中の白血球（好中球）数の変化



<口内炎の発生時期>

・治療後3～7日頃

抗がん薬の分解物の一種である「フリーラジカル」が口腔粘膜に染み出し、粘膜にストレスを与えることが原因です。

・治療後約10～14日前後

お口の中の局所感染が原因です。

抗がん薬の種類や個人差はありますが、ご自身の治療は、「いつ」「どれくらい」白血球数が低下するのかを知っておきましょう。

フリーラジカルによる口内炎が治りきらずに白血球数が低下すると、さらに口内炎を合併し、症状が悪化することもありますので、早めに対処しましょう。

抗がん薬治療による口内炎の大部分は、治療後2～3週間するとほぼ治ります。しかし、一度、口内炎が出現した部位は、その後も出現しやすくなりますので、まずは予防に努めましょう。

また、口内炎だけでなく、以下の病気や症状を予防するためにも、歯科治療や口腔機能訓練、お口の中を清潔に保つことは有効です。

- ・がん治療による口内炎の発症
- ・むし歯・歯周病、その他の口腔粘膜の病気
- ・口腔乾燥、口臭
- ・誤嚥性肺炎、細菌性心内膜炎などの感染症